



金屋町通信

発行元：

金屋町まちづくり協議会

発行・編集 責任者：

般若慎一郎

1月29日、金屋町のまちづくりに関して「金屋鋳物師町工房の早期建設、大型防火水槽の早期設置、観光駐車場の整備促進」の3点について、自治会・元気プロジェクト・藤グループ・まちづくり協議会の連名で市長に要望書を提出しました。

40億円の財源不足という構造的財政難問題が発生し、色んな事業の見直しがされているところなので、正直なところ不安も感じます。しかし要望しているテーマは金屋町だけの問題ではなく、高岡市全体の活性化に寄与することであり、是非計画通りに進めて行きたいところです。

文化財保護デー 防災訓練

1月14日、文化財保護デーにちなんで金屋

町の防災訓練が実施されました。先ずは一時避難場所の高岡金網駐車場へ集合し、徒歩で北陸予防医学駐車場へ移動しましたが、折からの大雪で昭和通の歩道は一人が歩ける程度しか除雪されて

いないので長〜い一列縦隊になってしまい、信号待ちでずいぶんと時間がかかってしまいました。

煙がたちこめるテント内を通過する煙室体験、水消火器による消火訓練、ジャッキとボールを使ってがれきの下敷きになった人の救助訓練、天ぷら鍋の発火実験を体験し、最後に公民館で講義を聞きました。

天ぷら鍋の発火実験では過熱した油から可燃性ガスが立ち上り、ついに発火したところでひしゃくで水を入れると爆発的に大きな炎が上がって、皆びっくりしていました。

スライドを使った講義では、糸魚川大火や県

内の大火事例について発生要因などを分かりやすく解説していただき、対策として火災報知機や消火器を設置することの意義を聞きました。因みに金屋町では3軒1組の連動式火災報知機を全戸に設置することを決めており、今年から設置が始まります。

ただ、火災報知機も消火器も火災発生後の対策です。それ以前に火災を発生させないためには、コンロをガスからIHに替えるとか、暖房機を灯油から電気に替えるなど、更

に踏み込んだ指導が必要ではないかと思いましたが、いかがでしょうか。



広くボランティアガイドを募集 藤グループと元気プロジェクト

金屋町のボランティア観光ガイド藤グループは、元気プロジェクトと共同で金屋町の観光ガイドになってくれる人を募集しました。今回は西部中学校区に限定して約4,000部のちらしを新聞折込したところ7名の応募者を得たところでした。

12月9日に金屋町の関係者などを加え約20名で第1回の研修会を開催しました。この日はあいの風副代表の清水静子さんに講師を依頼し、高岡市全体にわたるガイドのポイントや心構えなどを話していただき、その後出席者全員が自己紹介と意見交換をしました。



1月20日には第2回研修会を開催し、藤グループ初代代表の般若陽子さんが講師を務め、昨年製作した「金屋町ガイドマニュアル」に沿って金屋町の見どころ（見せ所）について学習しました。

2月からはいよいよ町なみへ出て、現地での研修をする予定です。

新高岡駅にブロンズ製瑞龍寺

竹中製作所（高岡市長慶寺、竹中伸行社長）は11月17日、創業90周年を記念して製作した国宝瑞龍寺の百分の一サイズの、青銅製でロストワックス鑄造法を用いて製造された精巧なジオラマ模型を市に寄贈しました。模型はJ

R新高岡駅南北自由通路に設置されています。



鑄物資料館が展示替え



鑄物資料館では2015年8月から約2年間にわたり、6期に分けて鑄物製作工程の技法別にテーマを設定し「魂の伝承展」を開催しましたが、昨年7月末に終了したことから「第7期～総合展」を追加し、大澤光民さんなど著名作家の作品を展示しています。7月2日までの予定です。

工事進むさまのこハウス

千保川に面する部分は新築になります。当初予定より工期が遅れていますが、2月末には外観完成、3月末には全て完了目指して大雪の中でも工事が進められています。



12月の金屋町拡大会議

休会しました。